会 議 録

令和6年度 第4回藤沢市子ども・子育て会議

開催日時	2025年（令和7年）3月24日（月）10：01～11：42
開催場所	藤沢市役所本庁舎5階 5-1会議室
出席者	委員20名（うち、職員1名） 澁谷委員長、金子委員、齋藤委員、戸倉委員、森委員、大竹委員、 堀部委員、田中委員、松尾委員、竹村委員、鬼塚委員、井本委員、 稲葉委員、野際委員、小沼委員、坂本（陽）委員、鈴木委員、相馬委員、 高橋委員、三ツ井委員 事務局26名 子育て企画課（吉原参事、三膳主幹、田淵課長補佐、佐藤課長補佐、 天川課長補佐、中野主任、齋藤（太）職員） 子ども家庭課（原田課長、大庭課長補佐、金子課長補佐、 齋藤（秀）課長補佐） 保育課（高田参事、作井主幹、田遠主幹、山中課長補佐、福岡課長補佐、 小峰課長補佐） 子育て給付課（寒河江課長、鶴井課長補佐、坪井課長補佐） 青少年課（齋藤（康）課長、西崎課長補佐、小澤課長補佐） 健康づくり課（神谷参事、中村主幹、上林課長補佐）
欠席者	委員3名

内 容

- 1 開 会
- 2 議 事
藤沢市子ども・子育て会議条例の改正及び今後の方向性について
- 3 報 告

(1) 藤沢市子ども・若者共育計画について

(2) 藤沢市少年の森再整備基本構想(案)について

4 その他

1 開 会

○事務局(子育て企画課)

皆様、おはようございます。定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第4回藤沢市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。藤沢市子育て企画課の三膳です。議事に入るまで、私のほうで進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、皆様にご連絡がございます。次第の裏面の委員名簿をごらんください。名簿の23番、市民公募委員(若者枠)の横山雄一さんですが、2月22日付で委員を辞任されましたので、ご報告させていただきます。

さて、本日は、名簿の7番、笹原信吾委員、名簿の12番、坂本結委員から欠席のご連絡をいただいていることをご報告させていただきます。また、現時点でまだお見えでない方もいらっしゃいますが、委員23名中20名のご出席をいただいていることから、藤沢市子ども・子育て会議条例第7条第2項「会議は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」との条件を満たしておりますので、本日の会議が成立することをご報告いたします。

なお、委員名簿10番、竹村裕幸委員、15番、井本園江委員、18番、小沼陽子委員、19番、坂本陽香委員、20番、鈴木理恵委員、21番、相馬寛子委員につきましては、ZOOMでご参加されています。

続きまして、本日使用する資料を確認させていただきます。机上に配付させていただいたものになりますが、今見ていただいた会議の次第、資料1-1、1-2、1-3、1-4、1-5、続きまして、資料2-1、2-2、2-3、2-4、及び資料3と、追加させていただきました資料4の12点。そのほか、参考の資料といたしまして「子ども青少年部紹介パンフレット 令和7年度版」、冊子ですが、「ふじさわ子育てガイド」2025年度保存版の2点、資料4と参考資料2点は追加配付分になります。また、皆様にご持参をお願いしております「第2期藤沢市子ども・子育て支援事業計画」、「藤沢市子ども共育計画」、2点、合計16点となります。不足等ございましたら、事務局にお申し出願いま

す。

先ほどの追加の資料に関しましては、本日、この場にいらっしゃらない方には、先ほどメール等でご送付させていただきましたので、よろしくお願ひいたします。

次に、会議の進行についてですが、会議録の作成を事業者に依頼していることから、速記者が同席しております。委員の方のご発言の際には事務局がマイクをお持ちいたしますので、マイクを通じてお願ひいたします。

あわせて、ZOOMでの録画もさせていただいておりますので、ご了承ください。

また、本日は委員の一部の方につきまして、オンラインでご参加いただいております。オンライン参加された委員の皆様は、原則として音声をオフにして会議にご参加ください。ご発言の際に音声をオンとするようお願ひいたします。

また、藤沢市こども計画策定支援業務の受託事業者である株式会社浜銀総合研究所の研究員が同席しておりますので、ご了承ください。

最後に、本日の会議の情報公開の取り扱いについてご案内いたします。

本日の会議は地方自治法の規定に基づく市の附属機関に位置づけられており、藤沢市情報公開条例第30条の規定に基づき会議を公開したいと考えておりますが、ご異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（子育て企画課）

また、本日、傍聴者の方はいらっしゃいません。

それでは、この後の進行は澁谷委員長にお願ひいたします。

2 議 事

藤沢市子ども・子育て会議条例の改正及び今後の方向性について

○澁谷委員長

皆さん、おはようございます。それでは、お手元の会議次第に沿って議事を進行させていただきます。

まず、次第2「議事」の（1）「藤沢市子ども・子育て会議条例の改正及び今後の方向性について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局（子育て企画課）

おはようございます。子育て企画課の天川と申します。それでは、子ども・子育て会議

条例の改正と今後の方向性について、ご説明させていただきます。お手元の資料1-1をごらんください。

まず1「藤沢市子ども・子育て会議条例の改正について」、(1)「経緯」です。こちらは前回の会議においても説明した内容ですが、昨年度から調査、策定を行ってきた市町村こども計画、こども基本法に規定するこども施策を対象として、その推進、進捗管理を進めることを目的に、2月の市議会に条例の改正を上程させていただきました。この条例改正が子ども文教常任委員会へ付託後、可決されたということで、改めて報告するというところで記載させていただいている内容です。

続きまして、改正内容としては、(2)「改正のポイント」です。こちらは従前の考え方を左側、右側に改正後の部分を記載させていただいております。従前の考え方としては、子ども・子育て支援法による審議と、一部、児童福祉法による審議が入って、所掌の計画としては、従前お持ちの子ども・子育て支援事業計画と、補完する黄色い冊子の共育計画を一括して進捗管理をしていました。

それが改正になりまして、こども基本法でやるこども施策と、所掌する計画として、今回新たに皆様にもご協力いただいて策定した子ども・若者共育計画ということで、市町村こども計画を一体化する計画として、ほかの子ども・子育て支援事業計画、これまでの計画も含めて進捗管理をしていく。メインがこども基本法ということで、たてつけを少し変えさせていただいています。

では、実際に所掌事務はどういう形で変わっていくのか、条例の改正内容について、2「所掌事務の詳細」でご説明させていただきます。

資料1-2「子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例新旧対照表」をごらんください。右側が改正前、左側が改正後ということで、基本的に第1条、第2条の2つの条文のみを切りかえております。

第1条で、子ども・子育て支援法に、こども基本法を設置根拠に加えるというところと、第2条で、所掌事務に関して、児童福祉法に関する内容1つと、こども基本法に関する内容2つ、全体で3つ記載しております。この所掌事務は、これだけ見てもわかりにくいところがございますので、詳細は資料1-3をごらんいただければと思います。資料がポンポン変わってしまい申しわけありません。

資料1-3に目を移していただいて、1「藤沢市子ども・子育て会議条例における所掌事務の記載方法」です。先ほど1-2で3つだけ所掌事務を入れているというお話をさせ

ていただきましたが、実際、所掌事務はもう少しございます。2「子ども・子育て支援法の内容を含めた子ども・子育て会議の所掌事務」に（1）から（8）まで記載しております。実際はおよそ8個あります。

なぜそうってしまったかという、子ども・子育て支援法の第72条第1項の規定に基づいて子ども・子育て会議を条例で設置しております。その関係で、子ども・子育て支援法に基づいた会議でやる部分は、法令で既に所掌事務が決まっておりますので、条例と重複してしまう関係があるので、条例には記載していません。改めてその部分、2に移らせていただきます。

先に言ってしまうと、2の（1）から（4）までが、もともと子ども・子育て支援法に記載されている内容です。（1）から（2）までが子ども・子育て支援制度に関する利用定員を定める際に、皆様にご意見をお聞きすることを規定したものです。

（3）が、従前の子ども・子育て支援事業計画、お手元に置いてあるこども計画、子ども・若者共育計画で言うと、全体として第5章が該当します。

この計画と、（4）子ども・子育て支援に関する施策の総合的な推進に関する調査、審議についてということが規定されています。こちらが法令上で既にやることが予定されているというか、所掌事務としてもともと想定されているものです。

また、あわせて（5）児童福祉法に関する内容について、これも、これまでこの役割自体は担ってきたものと捉えておりますが、小規模な保育園等の家庭的保育事業等の認可に当たり、また皆様のご意見をお聞きするという形になっております。

次に、（6）地方青少年問題協議会に関する内容です。こちらは、もしかしたら皆様にはあまりご認識されていない内容になるかもしれないので、改めて説明します。本市においても、別途青少年問題協議会がございますが、審議内容は主に青少年の居場所についてということでした。その部分に関しては子ども・子育て会議において討議するという議論が過去にあったことから、その部分は子ども・子育て会議で所掌事務として受け取るようになっております。青少年問題協議会の大きな問題ではなく、いわゆる居場所とかそういった問題に関しては、子ども・子育て会議でやっていく形で、現在、（1）から（6）までが、実は条例改正前からあったものです。

改めて追加したもの、実は追加と言いながら、これまでの子ども・若者計画であったり、そういった内容に含まれているものとオーバーラップする部分もありますが、（7）、（8）で、こども基本法によるこども計画、こども施策の総合的、計画的な推進に関して

の部分を追加させていただいております。

なので、最終的に2の(1)から(8)までが、現在、皆様をお願いしている審議会で討議、審議をしていただく内容となりますので、改めての整理のご説明となります。

資料1-1の2ページにお戻りください。(2)から、今後の子ども・子育て会議を進める上で本市が重点的に取り組む施策として、ア、イの2つを載せております。以降は、このたびの子ども・若者共育計画の中でも基本目標の中に追加したのですが、「子ども・若者の意見聴取」を1つ柱立てしているところです。もう一個、イの「子ども・若者の居場所づくり」で、居場所づくり推進計画を、今後、令和7年度に策定することを予定しております。そちらの策定に向けて、また重点的に取り組む施策として挙げております。

これらを踏まえて、3「会議の進め方」に移ります。部会による推進をしていければと思っております。アに記載しているとおりでありますが、議論自体も、計画のたてつけとか内容、子どもの意見聴取に関する事業の進め方等も含めて、もう少し密度を濃いものにしていきたいと考えていますので、3つの部会をつくって進めていきたいと考えております。

まずは、(ア)「保育・教育・子育て支援部会」です。こちらは主に保育等に関する内容を中心に討議する形になると考えております。当面は児童福祉法等の改正で、職員による虐待の通告に伴って、本審議会等への報告が検討されております。その部分について、次年度、どういうやり方でやっていくのかが当面は検討していく課題になるかなと思っております。

(イ)と(ウ)については、先ほどの重点的に取り組みを進めるという形で連動するものになります。意見聴取に関しては、今後も継続する予定にはしておりますが、この子ども・子育て会議の中での若者枠であったり、来年度、実施を進めたいと考えている子ども・若者による対面の委員会による意見聴取、意見反映に関する事業の進捗と連携して、取り組みの進め方を討議していきたいと思っております。

また、(ウ)「青少年・居場所づくり部会」については、先ほどもお伝えしたとおりでありますが、当面、居場所づくり推進計画の策定に向けた動きを進めていきます。先ほどの所掌事務で触れました青少年問題協議会における協議課題を討議対象にしていくとともに、また青少年問題協議会本体の協議課題も含むかどうか、今後、検討していくことになると考えております。

それに伴って、イの部分です。子ども・子育て会議、この本会議の役割は、(ア)子ども・若者共育計画、新たにつくった計画の進捗管理は、この会議全体の中で見ていくもの

と捉えておりますので、そちらを確認していくこと。(イ)各部会の進捗状況の報告を受けながら討議を進めていくという考え方でおります。

続きまして、想定スケジュールは資料1-4に記載していますが、来年度の子ども・子育て会議は、委員の委嘱替え、皆様の任期は7月でかわる形になりますので、8月の第1回以降、子ども・子育て会議という形で進めたいと思っております。このときに、現在の子ども・子育て支援事業計画とか共育計画、最後の部分の進捗管理をやりながら、新たな委員を委嘱させていただきたい。

そういうスケジュールとさせていただくとともに、下から2つ目、「部会」と書いてあるところに、ちょっと省略したのですが、①「保育・教育」、②「意見聴取」、③「青少年・居場所」の部会の回数を入れさせていただいています。このスケジュールは未定という状況なので、こちらで何となく割り振りをさせていただきました。

一方で、居場所の部会に関しては、どうしても居場所計画の推進、策定を来年度から進めていくに当たり、部会の数が少し多いような状況になっています。11月、1月は、子ども・子育て会議が終わったタイミング等で、少しだけグループとしてお時間をいただいて討議を進めたいということで、このように記載させていただいております。

また、意見聴取に関しても、6月の段階で事業を進めたいと考えているので、同様のスケジュール感としております。

なので、今回の部会の構成では、2回ほどかな、部会の回数としては委員さんのご負担がふえてしまいますので、大変恐縮ですがご協力いただきたいと思いますということで、スケジュールをお示しさせていただいております。

一番下にある子ども・若者委員会は、我々のほうで意見聴取をするに当たり、先ほどお伝えしたとおり、対面方式で子ども・若者の意見の聴取をするための委員会を立ち上げたいと思っているというところで、毎月大体1回程度ということで、スケジュール感を記載しております。

続きまして、資料1-5は現在の子ども・子育て会議の委員の名簿で、一番右の列に部会の構成の案ということで、皆様の出身母体とか活動内容に合わせて、こちらで一定割り振りをしてきたものです。この資料の構成はあくまで案という形で割り振りを行ったものです。次年度もまた、計画策定といった部分で皆様にご協力いただく段が出てくるかと思いますが、よろしくお願いたします。

子ども・子育て会議の条例改正の内容と今後の進め方に関しては、説明としては以上で

す。よろしくお願ひいたします。

○澁谷委員長

では、こちらが本日の議事、1件となっております。内容的には既に2月28日の本会議で可決された条例改正の説明です。こちらは、実質は報告になろうかと思ひます。また、それに伴って所掌事務が整理されるということで、改めて整理いただいたものをご説明いただきました。また、後半部分は今後の方向性ですので、皆様のご意見などもいただければと思ひております。

では、今の説明につきまして、ご質問あるいはご意見ございましたら、委員の皆様からご発言いただければと思ひます。

○三ツ井委員

では、私が質問してもよろしいですか。資料1-1の裏面の一番下、3「会議の進め方」の(2)「その他」で、「部会等による議論や事業の推進をする対象としないもの」ということで、アからカまで記載されています。部会に入らない、議論の対象にしないというあたりはイメージできますが、「事業の推進をする対象としないもの」という言葉の意味を少し説明してほしいなと思ひています。

例えば、さっきの本会議というのですか、親の会議の中で進捗管理をする対象に含めないということまで意図しているのか、それとも個別の議論をしないという程度の意味なのか、そのあたりはどういうイメージなのかを少しご説明いただけるとありがたいです。

○澁谷委員長

事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（子育て企画課）

(2)のところは、こちらが説明している段ではしょってしまっていました。申しわけございません。(2)を改めてご説明するとともに、ご回答させていただきます。

(2)「その他」ですが、今、子ども・若者共育計画の関係事業ということで、その重要性も、当然こちらとしても含めて考えております。ほかに中心的に討議する機関がある内容については、部会による進捗管理という形をとらないこととさせていただいています。もちろん、討議を全くしないという考え方ではないので、あくまでも重点的に事業を進めるものを部会で進めていきますよということと、本会議の中で、進捗管理として事業の計画に載っている事業とか、もしくは皆様から、この事業をどうしても取り上げたいという内容が出てくるかと思ひています。そういった内容は本会議で議論を進めながら、ものに

よっては部会にもその内容を落としていくというか、部会のほうでさらに議論を深めていくというイメージであります。

こちらの「部会等による議論や事業の推進をする対象としない」という書き方は、一般的に、一定、このラインの部分の部分を別の審議会でも議論しているということもありますが、一方で子どもの意見聴取でやったほうがいいよねとか、居場所の部分にかかわるよねというところは多分出てくると思っています。そういった部分に関しては、部会のほうでまた改めてやっていく、あるいは本会議のほうでやっていくということ想定しているところでございます。

説明が足りていなくて申しわけないです。

○澁谷委員長

補足説明ありがとうございます。今のご説明のとおり、進捗管理自体はこども計画の全てを行っていくので、委員の皆様からのいろいろなご意見等をこの場で聞いていくということは当然いたしますし、必要に応じて議論していく。ただ、ほかの部会や委員会も走っているいろいろな計画を立てておりますので、そのあたりの整理をしたいという趣旨での記載だと理解いたしました。

そのほか、いかがでしょうか。

○鈴木委員

質問というより感想みたいなものですが、これまで、1期目に参加したとき、居場所についてとか、子育てについてとか、結局、年間を通すと1回の会議でしか話せないということが物足りないというか、もう少し話せたらなというところがあったので、部会制になることで、それぞれがより専門性を生かして、深いところまで話が進められるのかなと思うと、今すごくワクワクしています。すごくよい形になるのではないかと期待しています。

○澁谷委員長

特に今年度は計画をつくるということで、行政のほうで用意している計画を見て意見を言う。論点も非常に幅広くなりましたし、また使う用語も、行政上使われる用語や法令上の用語などが非常に多かったので、日々藤沢市内で活動していたり、生活している中での実感に基づいた議論はしにくかったところもあるかと思えます。また来年度は、地に足のついたところでしっかりこの計画を進めていかなければいけないということで、二十何人で一遍に議論するのではなく、小グループに分かれての議論ができるということです。今年度、議長として取りまとめた立場としても、もう少し皆様のご意見が聞きやすい

環境が整えられるのかなと思って楽しみにしております。

そのほか、いかがでしょうか。オンラインの方を含めてよろしゅうございますか。

特段、ご質問、ご意見がないようでしたら、特に今後の進め方、部会の設置とか会議の進め方については予定としてご説明いただきましたが、部会の構想とかメンバーを含めて1週間程度、事務局でもご意見を取りまとめる期間を設けたいと承っております。特に部会の委員など、資料1-5は皆様のご意見を聞いた上で割り振ったものではなく、事務局のほうであくまでも案として整理したものですので、案の中で自分がどの部会に割り振られているのかも見ていただきながら、自分の日ごろの活動とか、あるいは場合によっては専門性みたいなものを生かせる部会がほかにもあるのであれば、なかなか会議の場では言いにくいかと思っておりますので、事務局に直接お申し出いただければと思います。

ということで、1週間程度、事務局で意見を取りまとめる期間を設けることをご了解いただくことで、本日の議事については一区切りということでよろしゅうございますか。――では、事務局のほうでも1週間程度、よろしく願いいたします。

○事務局（子育て企画課）

短時間で恐縮ですが、含めてご意見いただければと思います。今月末をめぐりにご意見を賜りたいと考えております。ご意見をいただいた上で、今後、部会長も決めていきます。子ども・子育て会議条例の中で、部会長は委員長による指名とされております。澁谷委員長と事務局で個別に調整させていただきたいと思っておりますので、ご協力いただけると幸いです。よろしく願いいたします。

○澁谷委員長

では、議事は以上ですので、報告に移りたいと思います。

3 報 告

（1）藤沢市子ども・若者共育計画について

○澁谷委員長

報告（1）「藤沢市子ども・若者共育計画について」です。事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（子育て企画課）

私から、「藤沢市子ども・若者共育計画について」、ご説明させていただきます。藤沢市子育て企画課の齊藤と申します。まず、資料2-1をごらんください。

今年度を通してご協力いただき策定を進めてまいりました藤沢市子ども・若者共育計画を、令和7年2月市議会定例会の子ども文教常任委員会において報告いたしました。藤沢市子ども・若者共育計画（案）の校閲等を行いまして、内容を確定させた藤沢市子ども・若者共育計画について、報告させていただきます。

資料2-2が、今年度進めてまいりました計画の本体です。

前回からの追加及び変更点として、表紙、裏表紙及び本文の中のデザインを追加させていただくとともに、事業の担当課につきまして、組織改正後の課名から（仮称）を削除したり、資料編に掲載している藤沢市子ども・子育て会議条例についても令和7年2月市議会定例会で条例改正が議決されたことから、改正後のものに変更するなどの調整を行いました。

表紙のイラストのコンセプトとしては、さまざまな属性の方が円になって、中央上の青いボーダーシャツを着た子どもが声を上げているというイラストになっておりまして、そちらに周りの方々が耳を傾けている様子をあらわしております。子どもの意見を聴取、反映するという本計画の姿勢を示すとともに、全ての子ども・若者は地域とともに育ち、ともに育てるという共育の要素を盛り込んだイラストとなっております。

資料2-3は、藤沢市子ども・若者共育計画の概要版です。作成の趣旨は、計画本体の内容を網羅するとともに、要所を把握できるよう簡潔な資料とするため、計16ページの冊子にまとめさせていただきました。こちらの作成に当たりましては、計画本体と構成を統一しつつ、本計画で重点的に取り組む事業である児童の権利に関する周知啓発事業、また子どもの意見を聴取するための仕組みづくりといった事業、具体的な取り組み紹介を行っております。また、1ページには子どものウェルビーイング、あるいは子どもの意見表明というキーワードについて、用語解説のコラムを設けるなど、伝えたい情報を伝えることができるよう、レイアウトを検討いたしました。こちらをご確認いただければ幸いです。

続きまして、資料2-4は藤沢市子ども・若者共育計画のやさしい版です。対象としては、小学校高学年から大学生までの方を対象とした資料です。小学生にもわかりやすい表現で本計画の内容を掲載して、申し上げましたとおり、小学校高学年から大学生までの子ども・若者に本計画を周知するために作成いたしました。

こちらの作成に当たりましては、計画の内容全てを盛り込んで子ども・若者に伝えるということよりも、子ども・若者が手にとりやすいものであることを重視したため、本体及び概要版よりも計画掲載内容を削減しております。削減した上で、掲載内容の選定に当た

っては、子ども・若者が自分事として捉えることができる、あるいは行政側、市が子ども・若者に伝えたい内容を選び、掲載しております。

また、やさしい版については、2024年12月から2025年1月まで、2カ月間にわたって子育て企画課で受け入れておりました長期インターンシップ生にもご協力いただきまして、子ども・若者にわかりやすい計画となるよう、やさしい版に掲載する事業の選定であったり、基本目標ごとのリード文（紹介文）を作成いただくとともに、先ほどお伝えした表紙イラストの制作にも意見をいただくなど、若者目線を取り入れたものとなるよう取り組みました。

最後に、この「やさしい版」とした名前の由来についてですが、こども家庭庁が、こども白書や、子ども・若者向けの資料に「やさしい版」と名前をつけていることであったり、あるいは「子ども版」等にしてしまうと、若者世代、特に高校生、大学生が、子どもだから自分には関係ないのではないかというふうに捉えてしまう可能性があったり、誰ひとり取り残さないという計画の目指す姿からも、外国籍の方等、幅広い方に読んでいただけるようにすることを鑑み、「やさしい版」と名前をつけさせていただいております。

最後に、資料2-1の裏面の5「今後の予定」ですが、令和7年3月下旬、もう今月の下旬ですが、計画の冊子が納品されるため、委員の皆様には3月末から来年度4月にかけてご送付させていただきますので、よろしく願いいたします。

以上で、藤沢市子ども・若者共有計画についての説明を終わります。

○澁谷委員長

この件につきまして、皆様よりご意見、ご質問はございますでしょうか。

○金子委員

今のやさしい版、子ども・若者向けへの配布というか、実際にはどういう場面で子どもに見てもらえるようになるのでしょうか。

○事務局（子育て企画課）

やさしい版については、どこかで配布して自分で見てくださいというわけではなく、今後、来年度以降、事務局が子どもの意見聴取を進めていくに当たって、まずは市、行政側が何をしているのかを周知していくための第一歩、ゲートウェイというか、市の行政がやっている施策について、情報がなければ、子どもたちも自分の中で意見を形成してそれを表明することは難しいと思います。あるいは、小学校、中学校とか、子ども・若者と触れ合う場面で、これを資料として持って行って説明して、そこで市の施策について知っても

らう、子どもと直接かかわる場面でこれを参考資料として使っていきたいと思っております。

○澁谷委員長

作成したものを活用することが大事なので、とりあえず子どもの意見聴取をするときには必ずこれをツールとして使っていくということでした。そのほかにも、周知、計画自体がどうしてもなかなか取っつきにくいです。ホームページに掲載しても、本当に関心のある人とか関心のあるところだけとなっていきますので、一般の人たち、特に子どもたちに、こんなことをしているよと伝えるのは大事な課題だよねということは、一貫して委員の皆様からもご指摘を受けてきたところなので、何かアイデアなども含めてもしございましたら、こんな工夫があるよとか、こういうところをどういうふうにかえたらいいでしょうかというご質問みたいなものもあれば、ぜひお出しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○鈴木委員

作成ありがとうございました。実物が手元に届くのが楽しみです。今の周知みたいなところで言うと、以前、子どもをいじめから守る条例みたいなのができたときに、同じようにパンフレットができて、低学年版、高学年版、中学生版、大人版、優しい日本語版みたいなのができたと思います。今回のやさしい版も、人を限定しないで幅広く見てもらえるようにという思いがすごくよくわかります。

でも、周知のところで、初年度こそ学校で配布して、ちょっと説明というか、みんなで見てみようみたいな時間がありましたが、2年目以降は、4年生になったから高学年版が配られて以上みたいな感じになってしまって、子どもも自分たちを守るためのものだという意識が持ちにくかった。学校もお忙しいとは思いますが、配布したとき、年に1回ぐらいはみんなで開いて、こういうことが書いてあるね、みんなにはこういう権利がありますよみたいなことを知る機会が持てると根づくのかなと思います。ちょっと要望みたいになってしまっていますが、そのように感じました。

○澁谷委員長

過去の経緯の中でも、学校のほうでもいろいろな周知をしなければいけないところがあって、また、藤沢市はわかりませんが、最近はペーパーレスですか、オンラインで周知することも多くなっていると思います。どこでプッシュしていくか、情報を届けていくかというときに、学校さんとの連携は非常に大事になってくるというところは、かねてよ

り意見としてはございます。このあたりのところは、ご協力いただけるようであれば、子どもたちに届けるというところも考えて、ぜひご検討いただければと思います。

ご参加の委員の皆様の中でも、何か。

○堀部委員

大庭小学校の堀部です。今年度、こちらに参加させていただいて、こんなに細やかに考えてくださっているんだなということで、私は本当に感動しています。このたび、新しくなるということで、やさしい版では子どもが目が行くような文字で、とても見やすくしていただいて、ありがたいなと思います。

今、ご意見にもあったように、学校のほうでは1人1台のタブレットをいただいて、学習にも取り入れています。配信も、紙の削減ということで、タブレットで委員会からの情報提供も始まっていきます。みんなで見るという意味ではこういうことをやっていますし、子どもたちがこういうのを見る機会があればいいなと思います。

今、青少年課では子どもの居場所づくりに力を入れていただいておりますが、先生方に説明する場合、この計画の中に入っているというところまで伝わらない部分があるので、市役所の中で一部としてこのように考えてくださっていると、ちょっと意識が高められるかなというのがありますので、できたら概要版くらい学校にいただければ、学校の中で回覧して周知できる機会が持てるかなと考えております。

○澁谷委員長

子どもたちにもそうですし、先生たち、大人たちも、まずどんなところが計画に入っているのか伝わるのが大事なので、どのぐらい作成してどこに配布するのかというところは検討しながらかと思いますが、このあたりはご意見があったということで、ぜひご検討いただければと思います。

では、ほかにいかがでしょうか。——特にないようでしたら、このあたりは本当に子どもたちとか若者たちがいいアイデアを持っているのかな。SNSとかいろいろな媒体があって、こういうふうにしたら目にする機会が多いというのは、恐らく若い人たちのほうが非常にいろいろなノウハウを持っているかと思います。子ども・若者委員会の中でもぜひこのあたりのところは取り上げていただいて、この本会議の場でも、いろいろ教わりながらと思っておりますので、事務局のほうでもそのあたりのつなぎをぜひお願いできればと思います。

では、よろしいですかね。この会議の場では幾つかご意見いただいたので、まずはでき

た計画を周知していくというところで皆様のいろいろなお知恵を拝借していければと思っております。

よろしければ、報告（２）に移りたいと思います。

（２）藤沢市少年の森再整備基本構想（案）について

○澁谷委員長

次に、報告（２）「藤沢市少年の森再整備基本構想（案）について」です。過去にも何度か取り上げてきた案件ですが、進捗があったということで、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（青少年課）

青少年課の西崎と申します。私のほうから、「藤沢市少年の森再整備基本構想（案）について」、説明させていただきたいと思います。

少年の森の再整備については、一昨年から再整備に向けて具体的に進めさせていただいております。昨年、基本方針をまとめさせていただきました。その中で、再整備で目指す施設の方向性ということで、今の魅力、自然環境、子どもたちが思いっきり遊べる場所を大切に、周辺住民やファミリー等も気軽に立ち寄れる、利用できる施設を目指していく、また、施設のあり方として、「森と水のキャンパス 一体験・創造型ネイチャーフィールドー」として、発見や気づきを得て学び合える体験型の場所を目指していきたいということで、昨年、基本方針をまとめさせていただきました。今年度は、それを具体的にどうしていくのか、基本構想ということでまとめさせていただきました。

資料３が基本構想（案）で、昨日の子ども文教常任委員会で報告させていただいた資料になります。まず、資料に沿って順番に説明させていただきますが、１「事業手法」については、最後の６「今後の進め方・スケジュール」に関連するので、後で説明させていただきたいと思います。

２「再整備コンセプト」ですが、今回の基本方針を具体的に進めていくために、どういったコンセプトをもって進めていくかをまとめさせていただきました。

まず、２の左の図については、施設のあり方、「森と水のキャンパス 一体験・創造型ネイチャーフィールドー」を実現するための機能、要素の関係を図にして、循環するものを描いております。「あそぶ」「まなぶ」「たべる」「つくる」、そういった中で楽しむことや考えること、創造すること、研究すること、そういったものが循環して、それぞれが出会

うこと、そういったものを図にあらわしております。

また、施設の特徴である独自性も必要と考えておりまして、今回の森の再整備では、人や自然環境との多様な出会い、そしてその中で生まれる発見やわくわくを大切にしていきたいと考えております。その上で、今回、再整備コンセプトとして「エウレカの森」を上げさせていただきました。「出逢いを通して“発見・わくわく”が生まれる場所」を再整備コンセプトとさせていただきます。

「エウレカ」とは何かというお話です。下に説明を書いておりますが、古代ギリシャのアルキメデスが発したとされている感嘆詞で、発見する喜びをあらわした言葉が「エウレカ」ですが、今回はそれをコンセプトに上げさせていただきました。ただ、今回、「少年の森」という名前が「エウレカの森」になるわけではなくて、あくまでこれは再整備のコンセプトとして考えております。今回は、「エウレカの森」という「出逢いを通して“発見・わくわく”が生まれる場所」を目指していきたいと考えております。

その上で、今回、3「基本構想図」を作成しております。これは、ゾーニング図とネットワーク図という構成でつくっております。先ほど説明した再整備コンセプトの「エウレカの森」の右側に5つの大切な要素を書いております。こちらは、公共施設をつくる上でよくあるのですが、つくって終わりになってしまう施設が多くありますので、そうするのではなく、成長していく施設を目指していきたいと考えております。皆さんとともにつくって、育てていくことが可能な自由な部分、余白を残しながら、実際に運営者と進めていく施設を目指しております。今回、5つの大切な要素、「余白」「小さな接点」「可視化と誘発」「継続と担い手」「新陳代謝」という視点を入れさせていただきました。そういった今回の大切な要素と再整備コンセプトの「エウレカの森」を掛け合わせまして、基本構想図をまとめております。

右側の4にはゾーニング図を入れております。また、こちらにはネットワーク図は具体的には入れていませんが、人と人とのつながりとか、自然のつながりとか、資源のつながり、そういったものをあらわしたものをネットワーク図としております。接触しろ（機会）を通じて人や自然環境がつながるものをネットワーク図としてまとめております。

ここではゾーニング図を説明させていただきます。右上の4「ゾーニング図」に移ってください。今回は「エウレカの森」を具現化するために重要な視点として、体験を創造する土壌づくりとして、人や自然環境の接触しろ（機会）をふやしていく。さまざまな体験を通して、出会う、見つける、自分だけのエウレカ体験ができる場所。そういったものを

重要な視点として、今回、ゾーニング図を設定しております。こちらに描いている中央広場ゾーンから環境保全・活用ゾーンといった6施設に分けたゾーニング図を展開して、その中でいろいろなことができる、自然環境を学べて保全できる場所、プレイパークができる場所、アスレチックができる場所、そういったものを生かしながら、今回、ゾーニング図として構想をまとめさせていただきました。

5「想定される施設改修の内容」を入れました。

まず、管理棟は建てかえを想定しております。老朽化していたり、狭くなってしまう部分がありますので、建てかえを想定しております。倉庫を広げたり、ワークショップができる場所、イベントができる場所、そういった機能を追加していきたいと考えております。

今、宿泊棟がございます。かわせみハウスですが、こちらはリノベーションを想定しております。宿泊できる場所とか、屋内イベント、研修スペースといったものを活用できたらと考えております。

また、植栽、アスレチックなど、老朽化している部分がありますので、そういったものは必要に応じて改修を行いたいと考えております。このように施設の改修を進めてまいります。

最後に、6「今後の進め方・スケジュール」です。1「事業手法」と関連するので一緒に説明させていただくと、今年度、令和6年度に基本構想をまとめさせていただきます。その上で、令和7年度は、具体的にどのくらいの大きさの建物をどこに建てるのかというところを具体的に決めていく基本計画をまとめたいと考えております。その上で、具体的に令和7年度、8年度で設計に入っていきます。令和9年、10年には整備、工事に入りまして、令和11年には供用開始ができればと考えております。そのような形で進めさせていただきます。

その下の段に、運営実施予定事業者の選定を行うということを書いております。今回、少年の森の再整備では、EOI方式を取り入れて進めさせていただきたいと思っております。このEOI方式とは、運営事業者を先行して決める方式です。本来は、工事期間中に運営事業者を決めて、来年度から運営をお願いしますという形になりますが、今回、設計のタイミングで運営事業者を決めまして、運営事業者も協議に入らせていただきたいと思います。

この利点は、あくまで箱をつくって「運営してください」だと、ちょっと使い勝手が

悪い施設になってしまう可能性もありますので、そういったことを避けるために、運営者目線での意見を取り入れた形での設計をしていきたいと考えておりますので、このタイミングで運営事業者を入れていきたいと思っております。

令和11年度からの運営に関しては、民間に貸し付けるとか、直営でやるとか、いろいろな方式があると思いますが、今回、市では公共性ということも大切に感じておりますので、指定管理方式を導入し、あくまで市の施設ということを踏まえた上での管理をしていきたいと考えております。

駆け足の説明になってしまいましたが、今回、まとめさせていただいた基本構想の説明は以上になります。

○澁谷委員長

では、本件、少年の森の再整備基本構想（案）につきまして、皆様からご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしゅうございますか。オンラインの方たちも、この基本構想について、これから計画をしていく段階なので、こんなふうなというご要望等あればお出しいただくことができますが、何かございますか。

○金子委員

最後のほうに計画が示されています。今は年間のイベントなどに使っていますが、実際、全く使用できない時期が出てくるのでしょうか。

○事務局（青少年課）

整備期間が令和9年、10年を想定しております。こちらも、今回、基本方針から説明させていただく中で、利用できるようにしていただきたいという声もいただいております。そういったものは、できる限り使用できるように設計していきたいと考えておりますが、やはり利用者の安全が最優先になってきます。その辺を両方とも鑑みまして、できる限り開くような形にはさせていただきたいと思っておりますが、ただ、令和9年、10年は多少制限がかかってくるかなと考えております。

○澁谷委員長

そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。——では、ないようでしたら、市民の方にとっては非常になじみのある施設かと思っておりますので、どうしても幾らか制限は出てくるかもしれませんが、引き続き利用できるような空間はしっかり確保しながら進めていただければと思います。

○事務局（青少年課）

ちょっと説明が漏れてしまったのですが、こちらは概要版としてつけさせていただいておりまして、今、本編、全部載ったものをホームページに掲載しております。もしご興味のある方はそちらを見ていただければと思います。

あわせて、ストーリーブックという形で、今回の基本構想を絵本形式でまとめておりまして、今後ワークショップなどで使わせていただこうと考えております。そういったものも掲載しておりますので、もしご興味のある方は見ていただければと思います。

○澁谷委員長

大事な補足情報をありがとうございました。ぜひホームページのほうでござんいただければと思います。

では、この場でご意見等ないようでしたら、報告事項については以上ということで、先に進めます。

4 その他

○澁谷委員長

最後は次第の4「その他」についてです。委員の皆様から何かございますでしょうか。

では、事務局からお願いいたします。

○事務局（子育て企画課）

当日追加ということで資料をお渡ししましたが、資料4と、参考資料「藤沢市役所子ども青少年部紹介パンフレット」ということで、2つお手元にあるかと思います。先に資料4をござんいただければと思います。

資料4「令和7年度 子ども青少年部に係る組織改正」という資料を出しております。令和6年度、7年度は、市役所全体が組織改正ということで動いています。子ども青少年部についても、組織改正で幾つか変更点がございまして、こちらの場でもご報告させていただきます。

1「令和7年度組織改正の目的」として、「子ども家庭課」を正式に「こども家庭センター」に改称させていただいて、子どもに関する相談支援機関としての役割を明確にすることと、健康医療部から子ども青少年部に母子保健事業を移管します。新設する親子すこやか課と一体的に取り組みを進めるということで、こども家庭センターを中心とした子ども、妊産婦、子育て世帯に対する相談支援、多機関連携を通じた包括的な支援体制の強化を目的として、2に組織改正の絵をお示ししております。

主な部分としては、今お伝えしたとおり、子ども家庭課がこども家庭センターに、内容としても相談支援機関としての役割の明確化を入れさせていただいている部分と、その下に「健康づくり課」と書いてありますが、こちらは子ども青少年部ではなく健康医療部という別の部局にありました。この計画策定の中でも、母子保健の事業が再三入ってきていて、これまでも母子保健計画としての位置づけもあったので、健康づくり課の特に母子保健業務を親子すこやか課に移管することと、含めてですが、子育て企画課にあった子育て支援センター等の子育て支援業務を親子すこやか課に移管します。改めて右側の「親子すこやか課」に業務を記載させていただいております。「健康づくり課」にある「市民の健康づくり等」は健康づくり課に残存しますので、そちらは健康医療部のほうに引き続き残るといって形になっております。

保育課、子育て給付課等に関しては特に変更点はありませんが、子育て企画課と青少年課はそれぞれ事業の一部を明確にしたという形で、うちの内部の規定ですが、所管する事務事業を明確化して、来年度、また力を入れてやっていきます。先ほど説明した内容と重複しますが、そちらを記載させていただいております。

続きまして、参考資料の令和7年度版の「藤沢市役所子ども青少年部紹介パンフレット」をご確認ください。こちらは、先ほどの藤沢市子ども・若者共育計画のやさしい版でご説明させていただいたとおりですが、長期インターンシップ生、要は大学生の方々にやさしい版をつくってもらいながら、来年度のうちの組織についての紹介用の資料もあわせてつくっていただくという、かなりハードにいろいろなことをやってもらっていましたが、一応そういう形でパンフレットもつくっていただきました。

こちらはできれば年度ごとに更新をかけていきたいというところと、もう少し子ども向けに説明できるような事業をつけ加えていくということで、各事業の意見聴取であったり、情報提供であったり、そういったことに活用してまいりたいと考えております。組織改正後の令和7年度版の子ども青少年部の各課を、こちらのパンフレットもあわせてご紹介させていただきます。

加えて、先ほど「ふじさわ子育てガイド」をお配りという形でご説明させていただきましたが、「子育てガイド」は、今、机上には置いておりません。白黒の紙ベースで計画書を置かせていただいておりますが、色つきというか、本物の冊子としてでき上がりますので、そちらと「子育てガイド」を合わせて、後日、皆様にお送りしたいと思っております。なので、今回、共育計画の紙ベースの資料をお持ちいただいても結構ですし、計画としては

改めて冊子をお送りしますので、もしご不要であれば机の上に置いておいていただければと思います。

○澁谷委員長

そのほか、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしゅうございますか。——では、組織改正のところで委員の皆様から見てどこで何をやっているのか伝わりづらかったり、あるいはできるだけワンストップでという流れがありますが、こども家庭センターの整備などで少し工夫が必要なところ等が見えてきましたら、こうした会議の場とか、あるいは事務局のほうにお伝えいただければと思います。

特にそのほかのところでご意見、ご質問ないようでしたら、最後、事務局にお返しする前に、任期はまだ続くのですが、今年度は計画策定をずっとやってきて区切りの時期にもなります。無理に計画に絡めなくても結構ですので、近況報告でもいいですし、1年間のご感想でもいいですし、あるいはこの場をかりてご意見とか、こんなことをもう少し大事にしていきたいとか、考えていきたいみたいな抱負的なものでも結構です。一言で結構ですので、ぜひお1人ずつ、委員の皆様から何かご発言をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

順番的には名簿順でいいですかね。まずは会場にご参加いただいている方からご発言いただいて、その後、オンラインの方にご発言をいただきたいと思います。

では、名簿順に、1番の金子委員から、トップバッターになりますが、何か一言お願いいたします。

○金子委員

青少年指導員協議会から来ております金子です。私は途中からの参加となっております。初めてこういう会議に出席させていただいて、資料作成から、事務局の方々のなさっていることを少しずつ見させていただいて、今まで知らなかったことが多々ありました。今後も少しでもこちらの会議でお力添えができればと思っておりますので、またどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○齋藤委員

よつば保育園代表の齋藤と申します。

保育園をやっている、日々仕事に追われている中で、こういった計画の中身に触れる機会はなかなかないものですから、非常に貴重な機会になったと思っています。そうはいつでも、現場では保育士が不足していたり、保育園に入れたい方からの悲鳴のようなご意見

をいただいたり、まだバタバタしております。早い段階で、この共育計画が進んでいって、そういうことがなくなっていくといいなと思っています。どうもありがとうございます。

○戸倉委員

藤沢市の社会福祉法人の保育園の集まりから参りました戸倉と申します。

昨年度から参加させていただきまして、そのときは身近な問題等々、いろいろ話す機会があって、発言をさせていただいたりしていましたが、ことしはさまざまな計画ということで、大変失礼ですが、ちょっとつまらなかった。来年以降、また身近なこと、深いことをやられるようなので、楽しみにしております。ありがとうございました。

○森委員

藤沢市みらい創造財団の森でございます。本日は会議に遅れてしまって申しわけございませんでした。

私も昨年4月からこの会議に参加させていただきまして、計画はほぼほぼでき上がっておりますので、なかなか意見等は出しにくかったところもございますが、来年度に向けては部会も開催されるということなので、部会の中でいろいろな部分で協議に加わらせていただけたらと思います。また引き続きよろしく願いいたします。

○大竹委員

私は、藤沢市私立幼稚園協会を代表いたしまして、また藤沢若葉幼稚園の園長を行っております。そして、令和5年8月1日から委員として参加させていただきまして、私の任期は7月31日までとなっております。その間にいろいろなことを学ばせていただきたいなと思っております。また、私はこの子ども・子育て会議に参加して、市の方が、子どもに関して本当に細やかにいろいろと考えてくださって、いろいろやってくさっているんだなというのをつくづく感じまして、ありがたく思いました。

ただ、幼稚園の現状の環境としては、年々、入園してくる園児が減ってまいりまして、今29園の幼稚園が加盟しておりますが、全体的に年間300名ぐらいずつ入園者が減少しております。ところが、保育園さんのほうは、保育園に入れないということで、待機児童がまだ若干おありだとも伺っております。幼稚園は2歳児ぐらいから預かり保育という形でやっておりますが、どんどん減ってきております。私だけでなく、ほかの園長さんたちも、今後どのように幼稚園を運営していったらいいんでしょうかねという悩みがたくさん出てきてしまっておりますので、どうぞ青少年部の方々、ひとつ幼稚園のほうにもお力添えをいただけましたらありがたいと思います。

でも、いろいろなことをお勉強させていただきまして、本当にありがとうございました。

○堀部委員

先ほどもお話しさせていただきましたが、本当に細やかに計画を立ててくださっているという部分で感謝しております。少年の森のご説明をいただきましたが、私もこの前、御所見小学校へ行ったとき、「少年の森がきれいになっていくらしいよ」という話を聞いて、こういうふうに計画をつくっていただいて、このような形でまた子どもたちが遊べるんだなと楽しみに思います。

冊子のほうでも子どもの意見を聞いて事業に取り組んでくださっていますが、今、子どもの自己肯定感が本当に低いです。学校で自信を持ってない、家庭でもあまり褒めてもらってなくて自信を持ってないというところで、地域で自信をつけてもらったとか、どこかで子どもたちが自信を持って生きていけるような環境をみんなで作っていきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。今年度はありがとうございました。

○田中委員

こんにちは。神奈川県立学校長会議鎌倉・湘南地区会議の代表として参加させていただきます湘南高校校長の田中と申します。私も昨年4月からの参加で、計画に関してはなかなか意見を申し上げる機会もなかったのですが、完成されたこの計画をこれからどのように周知していくかということになるろうかと思います。先ほど小学校の堀部委員からもお話がありましたが、高校のほうでもBYODがかなり浸透しているところもありますので、電子データで生徒たちに配信することは確実にできるのかなと思います。

湘南高校は定時制も併置しております。定時制に関してはなかなか多様な背景を持つお子さんが集まってきているところもあります。特に来年度、日本語が全くわからない状況で入学してくる外国につながりを持つ生徒さんもいますので、そういったお子さんたちに、どんなふうに周知していったらいいのかというところもご相談させていただければと思います。

また、高校は、全県学区なので、生徒の全員が全員、藤沢市そのものに対して愛着を持っているわけではない。ただ、逆に言うと、高校生がこんなことに参画できるよとか、大学生のインターンシップではありませんが、市の行政等に対して、こんなところで高校生の手が必要なんだけどというところがありましたら、ご相談いただければと思います。来年度以降も、またよろしく願いいたします。

○松尾委員

藤沢市民生委員児童委員協議会の主任児童委員をしております松尾と申します。

私は、3期6年目となりました。そろそろ新陳代謝も必要かなと少し考えておりますが、先ほどもありましたパンフレット等、「共育計画をやっているんだよ」と主任の集まりで言っても、みんなポカンとした感じでした。まず物が無いので、こちらもうまく具体的な説明ができないのですが、こういったやさしい版とか、青少年部の紹介パンフレットは子ども向けになるんですけど、このくらいが私たちの年代にもわかりやすく、できたら主任児童委員にも配布してほしいなと思いますし、「子育てガイド」も毎年みんな活用しているので、ぜひまた1人1部ずついただきたいなと思います。要望になってしまいますが、そういう感想を持ちました。

○鬼塚委員

湘南地域連合の鬼塚と申します。

湘南地域連合は、藤沢、茅ヶ崎、寒川に事業所がある工場とか企業とかの労働組合の集まりで、私もそこで役員をさせていただいております。この間もたまたま、ある工場の方と話していたら、どこも人手不足、定員が埋まらない中で、市とか町とかが過ごしやすい、住みやすい、子育てしやすいと、魅力が上がるのが企業にとっても選ばれる1つになります。ぜひ労働者と市とが一緒に、住みよいまち、暮らしやすいまちにしていきたいなと思って、この間、参加させていただきました。僕は結構参加しているので、今は学童の話になっていますが、当時は待機児童の話とか、そういうところで人数とかをいろいろ調整して、子育てしながら働ける環境をつくってくださっているんだなと、感謝申し上げたいと思っております。

最後は、今後、新しくなる「エウレカの森」です。ここはほかの公園というか遊び場と違って、泥んこになれるというよさがあるかなと思っています。今の子どもたちは昔よりも汚れることが少ないと思うので、ぜひ泥んこになれるような森にしていきたいなと思います。これはあくまで、もう子育て世代が終わりそうな僕の意見ですけれども、そういうところを残していただきたいなと思います。

○稲葉委員

神奈川県中央児童相談所の稲葉と申します。私も4月から参加させていただいています。

児童相談所でお受けする相談は、どうしても藤沢市の子どもさんと子育ての本当に一部になってしまうので、この会議で藤沢市の子ども・子育ての全体を見させていただくいい機会になったなと思っています。児童相談所でも、児童福祉法の改正があって、子ども本

人の意見をきちんと聞いていこうということを大切に、特に今年度は取り組んできました。来年度、こちらの会議でも、子ども・若者委員会とか、実際に当事者というかお子さんとか若者の声を聞く機会ができてくるというところで、また楽しい会議になっていくのかなと思いつつ、本日は参加させていただきました。

1年間、どうもありがとうございました。

○野際委員

児童養護施設みその子供の家の野際でございます。私も2.5期ぐらい参加させていただいて、長くなってしまったのですが、大人が真剣になって子どもたちのために考える会議ということで、非常に微力ですが、自分も力になれたらなと思いつつ参加しているところです。

私からすると、子どもが子どもらしくいられるための藤沢であってほしいし、将来、その子どもが藤沢で育ってよかったと思える市のつくりになればいいと思います。そんなものが共育計画等に入っているのかなと思いつついるところでした。ありがとうございました。

○高橋委員

私は、子どもたちが放課後や休みのときなどに遊びに来る子どもの家でボランティアをしています。一市民としてこの会議に参加させていただいて、子どもたちが笑顔でいられるようにいろいろなことを考えていただいていることを本当にありがたいと思っています。

居場所というのはとても大切だと思いますが、子どもたちは親御さんという時間をつくるのが一番大切だと思うので、その部分ももう少し考えていただくとありがたいと思っています。今の子どもたちを見ていると、いじめがものすごくあります。そして、親御さんの顔色ばかり見て、甘えられない子もたくさんいます。保護者、学校、地域の方が連携して子どもたちを見守ることがとても大切なのに、まだまだだと思っています。私はこれからもボランティアを続け、子どもたちを見守っていきたくと思っています。いろいろありがとうございました。

○三ツ井委員

まずはこの場をおかりしまして、委員の皆様にも、また今年度も1年度間、この計画を中心にご協力をいただきましたこと、事務局を代表する立場としても感謝申し上げたいと思います。

スケジュールを意識するあまり深いところまで皆さんのお声を聞く時間がなかなかとれ

なくて、ちょっと物足りないというご意見をいただくのも、なるほどなと思いましたが、来年度以降は部会の形でぜひもう少し深掘りした意見をいただくことで、先ほど委員長からもお話がありました、地に足のついた形でこの計画を進めていければありがたいなと思っています。

もう一つ、なかなかこういう話をする機会もないのでちょっとご紹介しますと、今年度、うちの事務局の職員が小学校6年生の授業へ行って、それぞれの子育て施策について説明して、意見交換をする時間をいただきました。例えば、小児医療費助成制度とか、非常に大人が目線での事業についても小学生が意見提案をしてくださったり、もちろん保育とかは実際に現場に行ってみたり、お子さんが、保護者である自分の親や、公園でアンケート調査をしてくださって、そのお子さんからの意見を聞いて、子どもにわかるように市の施策を説明する。子どもが思ったことを市の施策として、それはどうして今できていないのか、そういうことは取り入れられるのかみたいなことを子どもに対して説明するチャンスを今年度はいただきました。

我々も、子どもの目線できちんと説明できるようにということも含めまして、しっかりと担っていきたいと思っておりますので、ぜひ今後ともさまざまな観点からご意見をいただきたいと思います。また、年度変わりでこの立場を離れる委員の方もいらっしゃるのかもしれませんが、それぞれの場で藤沢市に対してご意見をいただければありがたいと思っていますので、ぜひ今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○澁谷委員長

引き続き、オンラインからご参加の方も名簿順でいきたいと思っております。竹村委員、お願いいたします。

○竹村委員

事業主を代表する者という立場で藤沢商工会議所から会議に出席させていただいております竹村でございます。

そういった立場上、あまり計画づくりに参考になるようなご意見も言えませんでした。この計画づくりに当たってご出席いただいている専門分野の皆様方のご協力には本当に感謝を申し上げたいと思います。ただ、私も個人的に申し上げておりましたけれども、子どもというのは市にとっても国にとっても宝物であることには変わりございません。そういった意味では、その子どもたちを守り、育てていく上でのよい計画ができたのではないかと考えております。

先ほど、資料1-1の裏面でいみじくも三ツ井部長が説明を求めた部分があったかと思えます。子どもを取り巻く環境の中ではさまざまな事業とか団体とのかかわりがあると思えますけれども、縦割りのようになって、せっかくできたよい計画が実効性を伴わないようなものにならないように、行政も含めて横断的なネットワークの中でしっかりと子どもたちを守り育てていけるように、計画に沿って進めていただければと思います。

私は結構長い間、会議に出席させていただいていますが、大変お世話になりました。ありがとうございました。

○井本委員

湘南助産師会の井本園江と申します。前にはアウトリーチ型の産後ケアについて意見を下さしてもらったりしていましたが、最近一番考えていることは、年間出生数がとうとう80万人を切ってしまい、どうやったら若い人たちが子どもを生んで育てたいという気持ちになってくれるかなと考えています。こういう会議があることは、多分とても大事なことなのだろうなと感じています。

あとは、一市民としての意見、感想が2つあります。

少年の森はたまに孫を連れて行きますが、そこが整備中に、あまり制限がかからないで、ここは今入れないけど、ここは使えるよというふうに継続してもらえそうなので、それがよかったなと思っています。

2つ目は、パンフレットですが、やはりやさしい版のほうがずっと読みやすいし、それは誰のとっても読もうという気になるものなので、出すなら、簡単なやさしい版がいいなと感想を持ちました。ありがとうございました。

○小沼委員

市民委員の小沼陽子です。私も今回初めて参加させていただいて、いろいろな動きを知れて、皆さん本当に忙しくやられているんだなと、本当に感謝の気持ちをお伝えできればなと思いました。

来期も、部会のやり方に大変関心を持っています。その中で、私はNPOで若者たちと一緒に活動していますので、若者の声を取りながら形にしていくことがすごく大事ななと日々思っています。その中で、今回の部会は意見聴取と居場所が分かれていましたが、若者は意見を言うけれども、それがどう形につながっていくのかがちゃんと見えないと、若者も意見を言う意味がないということになります。だから、意見を言った若者が計画にも入ったほうがいいのではないかと、連携をちゃんとしていかないと、意見を取りまとめ

ることだけが目的になってしまうという懸念があります。今後どのように連携してやっていったらいいのかなというのと一緒に考えられたらいいなと思いました。

この間、ワークショップをやって、私も参加して、いい意見がたくさん出たけれども、それが1つでも、どんな形になったかが今のところまだ見えていません。今回の会議も、私たちの意見がどういう形につながっていくのか見えづらい部分があったので、第1期の若者たちの意見を取り入れて、それが1つこういうふうになりましたというフィードバックをやっていけたら、若者ももっと積極的に意見を言ってくれるのではないかと感じています。

ただ、部会制というやり方は私もすごく前向きに感じて大変興味を持っていますので、今後も私のできる範囲でお役に立てるような協力ができたらいいなと思っています。どうもありがとうございました。

○坂本（陽）委員

市民委員の坂本陽香です。今、大学2年生ですが、若者の枠として1年間参加させていただきました。私はふだん、秋葉台周辺の学校で実際に子どもたちとかかわる機会が多くあります。小学校で学生ボランティアをさせていただいたり、ワークショップをさせていただいたり、子どもとかかわる機会が多い中で、年齢が近い私自身も、皆さんの会議を通して子どもたちとどういう接し方をするかとか、すごく考えさせられる1年間だったなと思いました。

私自身、これから1年間、地方で子どもとかかわる機会が多くなっていきますが、そういったところでも、この1年間の会議のことを踏まえてたくさん成長していきたいなと思っています。1年間ありがとうございました。

○鈴木委員

私は2期4年目が終了するところです。ちょうど計画の策定という大切なところにかかわれたことと、国としてもこども家庭庁ができたり、こども基本法ができたり、大きく変わるところですし、少年の森も再整備するところですし、市としても大きな変化もありそうなので、そこにかかわれたことがすごくうれしいと思います。

先ほど小沼さんがおっしゃっていた来年度のやり方についても、そのすり合わせを行うのが、この子ども・子育て会議の本会議になるのかなと思います。私も居場所づくりをしているので居場所の部会に入れていただいているかと思いますが、こういうのをやりたいと突っ走ってもいい場所になるわけではないので、子どもや若者やお母さんたちとかの意

見を聞くことで、より意味のある居場所がふえていくといいなというところに携わりたいなと思っています。ぜひ会議をそういう連携の場にできたらいいなと思います。

この委員でも、ただ会議に出ているだけでなく、実際にファミリーサポートとか、私のやっている居場所に来てくださるお母さんたちの声とかをこの会議でお伝えさせていただいたり、そこでいただいた実際の状況をお母さんたちにフィードバックするという架け橋みたいな役割をさせていただきました。それぞれがただ思っているのではなく、そこをつなぐことがすごく大事ななと改めて感じたので、引き続きかかわれたらうれしいと思います。どうもありがとうございました。

○澁谷委員長

では、最後に相馬委員、お願いいたします。

○相馬委員

こんにちは。私自身、子育て支援の会社に15年以上勤めていた経験から、市民として1年間参加させていただきましたが、毎回あまりにも資料が莫大で、読み込むのに非常にわからないことも多く、ほとんど点でつながっていたものが、最近やっと線につながってきたぐらいのレベルで、意見を求められてもきちっとお答えできなかったのが力不足だなと感じながら過ごしていた1年です。

ただ、先ほどもお話にありましたとおり、計画1つ決めるのに、市の職員の方々、部会の皆さんの熱い思いが知れたというのは、市民としてすごく有益な時間だったかなと思っています。来年の部会も非常に楽しみです。今までの経験が生かせるように、引き続き参加させていただければと思っています。

あとは、先ほどもおっしゃっていたとおり、少子化で子どもの数が減っている。今ちょうど子育てをしている世代ですが、私たちも何かできないかなとずっと考えていて、このたび婚活支援の会社を立ち上げることにしました。少しでも結婚、出産、育児のサポートができるような、社会に役立てるような人間になっていきたいなと考えておりますので、引き続きご指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○澁谷委員長

漏れはないですかね。皆さんから一言ずついただけたかなと思います。ありがとうございました。ご発題いただくと、もうちょっと話を聞きたいなという思いになりますので、もう少し少人数で身近なところから話ができる機会があるということを私も楽しみにしております。

こちらでお預かりしている案件は以上ですので、最後に事務局から事務連絡があればお願いいたします。

○事務局（子育て企画課）

本日はお忙しい中、藤沢市子ども・子育て会議にご出席いただきまして、ありがとうございました。私から、4点ほどご案内させていただきます。

まず、本年8月に予定しております子ども・子育て会議委員の改選について、ご案内いたします。子ども・子育て会議委員の任期は子ども・子育て会議条例において2年と定められており、若者枠で途中募集した委員の方を除きまして、任期途中で委員になられた方も含めて2025年7月31日で、現子ども・子育て会議委員の皆様の任期は満了となります。改選に当たりまして、4月以降、推薦状の送付先の確認や後任についてのご相談を個別にさせていただくこともございますので、その際はご対応のほどお願いいたします。

次に、先週の金曜日（21日）に、人事異動による委員の交代の有無や名簿の修正についてのメールを送らせていただいております。人事異動等により現在のポストから異動とされる方や、職名の変更などがある方は、メールの内容をご確認いただきましてご返信をお願いいたします。なお、既にご返信いただいている方につきましては、ご協力ありがとうございました。

次に、次回の会議の日程をお知らせいたします。委員改選後の日程とはなりますが、次第の中ほどに次回会議の日程を記載しております。次回、令和7年度第1回会議は8月中旬から下旬に開催を予定しております。

最後に、本日、駐車券をお持ちの方がいらっしゃいましたら、会議終了後、事務局の山中までお持ちくださいますようよろしくお願いいたします。

以上です。

○澁谷委員長

これで本日の日程は全て終了いたしました。本日は速やかな進行へのご協力、ありがとうございました。

以上です。お疲れさまでした。

以 上